

RKK Group Magazine りゅうかい

# RYUKAI



2017 No.283  
秋季号

## トップエッセイ 宮古島の観光

夢と暮らしと文化をはこぶ  
 琉球海運株式会社

琉球海運グループ

沖縄港運(株) 宮古港運(株) 八重山港運(株) 沖縄荷役サービス(株) (株) 沖縄急送  
(株) 沖縄輸送サービス (株) 九州輸送サービス (株) きょうはい 国際輸送(株) 琉海リース(株)

# トップ エッセイ 宮古島の観光

宮古港運株式会社  
専務取締役 徳村 政治



今、宮古島は観光客で賑わっています。市観光商工局が、今年度上半期の入域観光客数を前年同月比十六万八七二二人増の六十万九一五人、交通手段として空路で三万四二一四六人・海路で二万八七六九人と発表しました。大勢の方が宮古島に観光に来ているのです。

今後も、増えてくる大型クルーズ

船による観光に対応する為、国土交通省より「国際クルーズ拠点港」として指定され、十四万トン級のクルーズ船が接岸可能なバースの工事が今年九月三十日に始まりました。また、リゾートホテル建設工事も次々と始まっています。

最近では、テレビで宮古島を紹介する番組も増えてきていますが、今から三十三年前の昭和五十九年四月に宮古島東急ホテルがオープンし、翌年の昭和六十年四月に第一回全日本トライアスロン宮古島大会が開催されました。今年も第三十三回大会が開催され、「スイム」は東洋一美しいと言われる前浜ビーチで、「バイ

ク」では三つの橋を渡り、中でも伊良部大橋からの景色は絶景です。「ラ」では島民の温かい声援を受けながら走る、宮古島全体がトライアスロン一色に染まる日。そんな大会に魅了され宮古島に移住するストロングマンも数多くいます。平成二十七年に伊良部大橋が開通し、移動が便利になった事も大きく影響しているでしょう。

伊良部大橋といえば、宮古島は「日本一」が付くものがたくさんあります。無料で渡れる橋としては日本最長の三千五百四十メートルを誇る伊良部大橋、日本一長い農道の橋、サトウキビ生産量、マンゴー収穫量、地下ダム、与那覇前浜ビーチ、日本で最も美しい村連合の多良間村など、私が知っているだけでもこれだけの日本一があります。

他にも、宮古島市は観光協会と共に首都圏に出かけ自然や海の美しさをアピールし、スポーツアイランドと銘打ってビーチバレー宮古島大会

やジェットスキー宮古島大会を開催し、国内外から大会参加者を宮古島に誘致することで、宮古島の自然やキレイな海が心に残り、夏になると「宮古島に行こう！」と思う皆様が増えているのかなと思います。

観光客の方々は、昼間は宮古島本島内と橋が架かっている「池間島・来間島・伊良部島」にある人気のビーチで海水浴やダイビング、エメラルドグリーンの海の景観を楽しみ、夕方には市街地の島唄民謡の居酒屋で宮古島を楽しんでいるようです。更には、宮古島の海に魅せられてか、ダイビングショップ・居酒屋及び小物アクセサリー店等、宮古島に「ターン」で来られた方の経営するお店もたくさんあるんですよ。

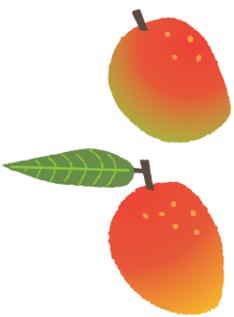
私が宮古島に生まれ育って五十八年間、当たり前のように見てきた海は、沖縄ではどこも大差はないと思っていたのですが、沖縄本島在住の友人が宮古島に来て「キレイな海だ」と言った時には、「えー沖縄本島

の海も一緒じゃないの？」と聞くと「いや、やっぱり宮古の海はキレイだ！」と言っていた事を思い出しました。

しかし、今後観光客が益々拡大した場合に、それを受け入れる交通機関や宿泊施設・娯楽施設・飲食店・人材育成等の受け入れ態勢がまだまだ不足している事が宮古島の課題となっており、様々な開発が進んでいくでしょう。

国内外の皆様から認めて頂いたキレイな海と自然を、未来永劫残す為にも宮古島のリゾート開発は慎重にお願いしたいものです。

最後に、私がお薦めするキレイな海岸は、下地島空港滑走路の北誘導灯西側の砂浜が一番です。まだ、見たことが無い方は是非宮古島までお越し下さい。こころよりお待ちしております。



## 新造貨物船 「しゅれいⅡ」出迎え式

八月十二日(土)那覇新港にて当社新造貨物船「しゅれいⅡ」の出迎え式が行われました。  
当日は晴天に恵まれ、当社役員員ならびに琉球海運グループ関連会社からも多くの方々に参加して頂き初入港を見守りました。接岸後は船長への花束贈呈、船内見学、立食パーティーも行われ、「しゅれいⅡ」の完成と初入港の喜びを参加者の皆様と分かち合いました。



船長へ花束贈呈



盛大に乾杯！



式典の様子



中城港初入港

## 「しゅれいⅡ」 中城湾港初就航

八月十九日(土)「那覇—中城—大阪—東京」京阪航路の開港に伴い「しゅれいⅡ」中城湾港への初就航式典が同湾港にて行われました。  
式典には沖縄県土木建築部の宮城理部長、中城湾港開発推進協議会の島袋俊夫会長(うるま市長)にもご出席、ごあいさついただき、本実証実験への期待

値の高さを感じるものがありました。  
京阪航路は貨物が集中する那覇港の混雑解消や、中城湾港新港地区の産業支援港湾としての機能強化などを目的とし、県土建築部の物流拠点化促進輸送補助事業の一環として二〇一九年度までの三年間、週一便で運航し実証実験を行います。

## RKK中城総合物流センター起工式

十月十一日(水)うるま市の国際物流拠点産業集積地域でRKK中城総合物流センターの起工式を行いました。式典には富川盛武副知事、島袋俊夫うるま市

長、沖縄振興開発金融公庫の川上好久理事長にもご出席、ごあいさついただき、工事の安全を祈願しました。

RKK中城総合物流センターは一万七千平方メートルを超える県内最大規模の物流施設となっており、常温・冷蔵・冷凍の三温度帯で荷物を管理。また、自動化された保管倉庫や自動仕分装置など最新設備も備え、二十四時間稼働することにより輸送時間を短縮し、コンビニや量販店など、さまざまな荷主様に対応可能となります。

同センターは二〇一八年十一月に完成、十二月からの運営開始を予定しています。



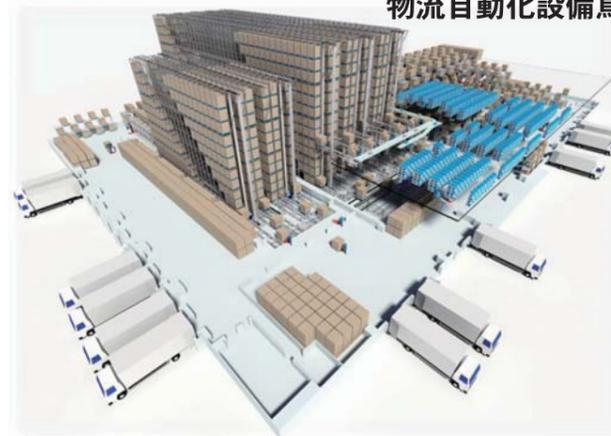
起工式の様子

### RKK中城総合物流センター概要



所在地	沖縄県うるま市勝連南風原 5194-35			
敷地面積	44,018 m <sup>2</sup> (13,315 坪)			
延床面積	17,649 m <sup>2</sup> (5,338 坪)			
構造	鉄骨造 地上2階			
設備・能力	1F 常温自動倉庫	708 m <sup>2</sup>	(214 坪)	2,442 パレット
	冷凍自動倉庫 (-25℃)	679 m <sup>2</sup>	(205 坪)	1,926 パレット
	常温倉庫	4,883 m <sup>2</sup>	(1,477 坪)	510 パレット
	定温倉庫	322 m <sup>2</sup>	(97 坪)	123 パレット
	冷蔵倉庫 (5℃)	1,747 m <sup>2</sup>	(528 坪)	-
	冷凍出荷待機所 (-25℃)	209 m <sup>2</sup>	(63 坪)	-
2F 常温倉庫	2,752 m <sup>2</sup>	(832 坪)	380 パレット	
倉庫設備は村田機械株式会社の製品を採用				
施工主	株式会社フジタ			
建築主	琉球海運株式会社			
総工費	約36億円			
工期	着工2017年10月15日、竣工2018年11月30日			
運営	琉海ロジスティクス株式会社 (2018年12月より運営開始予定)			

### 物流自動化設備鳥瞰図



## 琉球海運グループ経理実務担当者講習会

10月2日(月)琉球海運本社会議室にて、琉球海運グループ経理実務担当者講習会が行われました。グループ各社の経理事務のブラッシュアップを目的として、年に一度開催されています。当日は田港公認会計士による「法人税申告の基本・交際費・少額減価償却資産・引当金・経営分析」についての講義が行われました。各社の経理担当者も、講習内容や日頃の実務で疑問に思っている点を質問し、有意義な講習会になりました。

今回の講習会での気づきをもとに、グループ各社で経理業務の効率化やレベルアップを図って参ります。



講習会の様子

## 琉海スポーツ

### 草野球交流戦

9月27日(水)漫湖公園多目的広場で琉球海運VS沖縄港運との草野球マッチを催しました。久々の野球試合ということもあって、参加者はやる気に満ちあふれていました！試合は見事な打ち合いの様相を呈し盛り上がりを見せ、試合の結果はというと…琉球海運初めての勝利となりました！参加者の皆さんお疲れ様でした！



お疲れ様でした！

### フットサル

10月20日(金)セルラーパーク那覇で琉球海運VSりゅうせきとのフットサル大会を催しました。試合中、ときおり激しくぶつかり合う場面もあり？あったことにしておきましょう…会社のプライドを背負った熱い戦いの末、琉球海運チームは1勝もできませんでした。次の試合には1勝はできるよう鍛えておきます！参加者の皆さんお疲れ様でした！



完全に疲れきっています…

## (株)沖縄輸送サービス

## 本社事務所 改装工事

平成8年より現住所に事務所を構え20年以上、長年の内装の劣化や人員の増加に対応する為に9月15日の夜より18日迄の連休の期間に工事を行い内装及び、レイアウトを一新致しました。

過去に事務デスクの配置替えを行った事はありましたが、今回は創立40周年の節目に伴い什器備品の総入れ替えを致しました。

心機一転新しく生まれ変わった事務所で益々の発展を目指してまいりますので今後とも宜しくお願い致します。



改装前



改装後

## 八重山港運(株)

## 「第13回アピール駅伝」

去る9月30日(土)に第68回全国労働衛生週間にちなんで、沖縄県労働基準協会八重山支部主催の「第13回アピール駅伝大会」が行われ、今年も弊社から我那覇社長、安全衛生推進室 村山室長、総務部 宮良課長、そして私山城が参加しました。

本年度は「働き方改革で見直そう みんなで輝く 健康職場」をスローガンに、労働衛生意識の高揚と、自主的な労働衛生管理活動の促進を図り、広く市民にPRすることを目的としています。今年も昨年と同距離の27区間(14.15キロ)をタスキでつないでいきましたが、ただ違っていたのは暑さでした。今年の石垣は本当に暑く、参加していた40名余りの方が「暑い・暑すぎる…」と声を出し頑張っていました。

市民の皆様にはPRすることを目的とし走っている参加者が倒れてしまうのではと心配ではありましたが、無事に参加者全員がゴールまで走りきり、目的はしっかりと果たせたと思います！！参加者の皆様、暑く、長い戦い、お疲れ様でした。



参加者全員と



行くぞ!! Y S F!



初めての操縦…緊張しますね！



ムラなく塗れています！



仲村「慣れた航路も初航路ですよ！」



與那嶺船長から厳しい指導を…？



同期4人で一緒に！



船上での初調理中の宮城

# 乗船研修記

さて、今年もこの時期がやってきました～毎年恒例となっています琉球海運新入社員の乗船研修が9月下旬に実施されました。去年は台風の影響で時化していたのですが、果たして今年はどうだったのでしょうか。研修に参加した社員の感想記事をどうぞ！

ラッシング作業に悪戦苦闘する宮平



丁寧なペンキ塗りを披露する堀



ワッチ作業中「あ、あれは…」



船上とえばこれですよね、社旗

が、運よくべた風でスケジュールの運航になりました。福岡までは「ちゅらしま」、東京から大阪・那覇までの下りを新造船の「しゅれいⅡ」で行くことができました。

まず初日は朝十一時に「ちゅらしま」で那覇から出航しました。出航前にラッシングの経験をさせて頂き、ラッシングベルトを往復させて固定していきましました。最後の一巻きはかなり力が必要で、大変な作業だと感じました。また、ブリッジや機関室も見学し、特に機関室はこれまで入ったことがなかったため非常に良い体験となりました。二日目のお昼は博多に入港する前に、岸壁のピットにかけられる網の取り外し作業を行いました。予想外の網の太さに運ぶ際悪戦苦闘してしまいました。

下船中は、福岡・東京・大阪支店や関連会社への挨拶回りをし、各航路についての概要を説明して頂きました。運ぶ貨物の中身やそれぞれの港の雰囲気など各支店で違った特色があり、支店での仕事内容を知る貴重な体験となりました。スケジュールの都合で東京・大阪支店では時間が限られてしまいました。丁寧な対応をありがとうございました。

帰りの「しゅれいⅡ」では水曜の夜から土曜の朝までと、途中下船もありましたが乗船時間が長い分、ゆっくりと船での仕事について学ぶことができました。ちゅらしまでは朝・昼の入出港だったため、有明港や南港で夜静まり返った暗い中、周りの船を確認しな



営業部 宮城 真大

去る九月末、待ちに待った乗船研修に参加しました。さて、この時期は台風シーズン。乗船研修の前の週は大規模な台風の影響もあり、研修の際も台風が来るかもしれないと戦々恐々としていました。蓋を開けてみると幸か不幸か「べた風」。絶好の研修日和でした。

今回の乗船研修では「ちゅらしま」で那覇→博多、八月に就航したばかりの「しゅれいⅡ」で東京→大阪→那覇を計六日間で全支店をまわる贅沢なルート。入社して早半年が経ち、少しずつ知識が増えてはいますが、船の仕事・船員の方々の仕事についてまだまだ何も知らない状態に等しく、それらを実際に経験出来る良い機会でした。

「ちゅらしま」、「しゅれいⅡ」共に入出港時のスタンバイ、ワッチ、機関室見学をさせていただき、「ちゅらしま」ではラッシング作業や入港時の綱出し、「しゅれいⅡ」ではロープ作りやペンキ塗りも体験させていただきました。特に入出港時の緊迫感「ここに居てもいいのだろうか」と思わずにはいられないほどでした。やはりと言うべきか、船員の方々は仕事に対する矜持を随所に感じると同時に熱量の多さにも圧倒されることも多々あり、海上と陸上とで働く場所の違いをそこに意識の差があつてはいけないと

感じました。

各支店の研修では各航路の特色や現在の状況、そして今後の展望等を説明していただきました。各支店には未だ面識のなかった先輩方もおられたので、実際に顔を合わせてお話しでき、各支店の雰囲気も少しではありますが感じることができました。本社とは雰囲気や業務内容は違いますが、船員の方々や本社の先輩方同様、仕事に対する責任感や楽しそうに仕事について語る様子は同じように感じられました。

個人的には入社直後にこの研修が組まれていたらただ単に「楽しかった」「凄かった」で終わっていたのかもかもしれません。入社して半年という仕事に対する知識が徐々に増えてきたタイミングで参加したからこそ、色々な事を感じ考える事ができました。この研修で学び感じた事を忘れず、今後の業務に活かしたいと思えます。

最後に、「ちゅらしま」と「しゅれいⅡ」の船員の方々をはじめ、各支店の先輩方、研修で今まで以上に仲良くなった(?)同期、その他研修に関わった皆様本当にありがとうございました。



営業部 宮平 睦月

九月二十五日から三十日にかけて、福岡・東京・大阪へ向けて乗船研修に行つて参りました。昨年はだいぶ時化たとのことで酔いを心配してしまし

がら出航していく様子には緊張が走りましました。また、ブリッジでのワッチだけではなく、ロープワークの講習やペンキ塗りなど普段聞かない様々な業務内容も体験できました。

この乗船研修を通して、普段見られないデッキの様子や入出港におけるスラストの技術などといった、乗組員の普段の仕事について深く学ぶことが出来ました。乗船研修で得た経験を活かして今後の業務にも励んで参ります。最後に、短い期間でしたが気さくに話しかけてくれた乗組員の皆様、航路説明や支店回りの同行などお世話になった各支店の皆様、事前に乗船研修の調整をして下さった本社の方々、本当にありがとうございました。



大阪支店 堀 圭介

九月二十五日から九月三十日までの六日間、五泊六日で「新入社員乗船研修」を行いました。私たちの乗船研修は、那覇→福岡→東京→大阪→那覇という行程でした。

まず那覇→福岡間を「ちゅらしま」に乗船させていただきました。「ちゅらしま」では、船内見学、機関室見学、ワッチ、ラッシング作業の体験などをさせていただき、夜には乗組員の皆様が無言のうちに開いてくれました。また、入港前には綱出し作業も体験し、船のロープが思っているよりも重たかった

ことに驚きました。

東京―大阪―那覇間では、新造船の「しゅれいⅡ」に乗船できるようスケジュールを調整しました。「しゅれいⅡ」はやはりきれいで、船内においても新しいにおいです。舵取り、ペンキ塗りなども体験させていただき、東京―那覇と三日間ありましたがあつという間でした。私は大阪支店勤務なので岸壁から大阪に入港する「しゅれいⅡ」を見上げている側ですが、船の上から大阪に入港し、出港する様子を見られたことがとても心に残っています。また、先輩方から船酔いの話を聞いて心配だったのですが、幸い天候もよく波もなかったため「ちゅらしま」、「しゅれいⅡ」ともに全く船酔いせず

に過ごすことができました。福岡支店では博多航路の現状、沖定会の説明、東京支店では東京の貨物の現状や大阪支店とのスペース割り、ブッキングについて等、大阪支店では大阪航路の現状や内航に関して、移転予定のヤードを見学させていただきました。スケジュールの都合上、各支店での滞在はあまり長くはなかったですが、各航路特色が違っており大阪支店と比べ雰囲気も違う気がしました。いずれは全ての支店で働き学んでみたい

です。乗船研修では普段の業務では知ることができない船での仕事や技術、各支店での様々な業務を知ることができました。「ちゅらしま」「しゅれいⅡ」の乗組員の皆様、福岡支店、東京支店、大阪支店、本社の皆様、お忙しい中、

私たちの乗船研修に協力していただき本当にありがとうございます。



企画部  
仲村 周也

九月下旬の六日間、「新入社員乗船研修」に行つて参りました。台風や各々の業務の調整もあり、今回は例年より一ヶ月遅い日程での研修となりました。今まで沖縄本島と離島をつなぐ旅客船しか乗つたことがなかったので、「乗船研修」という言葉を聞く度に不安になり、同時に船上でどうしてもやりたい夢があった私はワクワクしていました。そして、一番の心配事である「船酔い」防止の為に大量の酔い止め薬を購入し、準備だけは万全な状態で研修スタートを迎えました。

今回は行程も例年の往路京阪スタートと異なる博多スタートとなり、「ちゅらしま」乗船となりました。乗船してからは見るもの聞くものが全て初めてであり、興奮を抑えつつラッシング作業や機関室の見学を行いました。ラッシング作業はかなり力が必要で、正しい体勢が出来ていなかった私は少しの動きで腰が痛くなり、機関室でも同様に作業の大変さを実感しました。ブリッジではワッチ、おもてでは入港時の綱出しを行い、案の定全く力が入らない有様でしたが、船上でどうしてもやりたかったあの「タイ〇ニック」の夢を叶えることが出来ました。

下船した福岡・東京・大阪での支店研修では、ブッキング業務や各支店の貨物の特徴を説明していただき、関連会社への挨拶回りを行いました。部所が分かれていない支店では、各々のスピーディーな動きが重要で、支店での連携が本社の円滑な業務につながっていることを感じられました。各支店での研修は短い時間でしたが、業務も含めたそれぞれの雰囲気や直接肌で感じる事が出来たことはとても良い機会でした（福岡では夜の雰囲気も...）。

復路京阪の「しゅれいⅡ」では、ロ―プワークやペンキ塗りをさせてもらいました。特にペンキ塗りは新造船ということと緊張もしましたが、感慨深いものがありました（快晴の中での外作業は最高でした）。大阪出港時にはエンジントラブルに遭う場面があったのですが、その際の船員同士のやり取りのスムーズさは素晴らしいものでした。海上での船員同士の連携が陸上職員との連携につながり、会社が成り立っていることを感じさせられた場面でした。

今回乗船研修を通して、普段とは違う立場になって物事を考える良い機会になりました。昼夜問わず迎え入れてくれました海上職員の皆様、各支店の皆様、研修をするにあたって対応してくれました全ての皆様に感謝申し上げます。入社して早半年、まだまだ力不足ですが頑張ります！（心配していた船酔いは大丈夫でした。）

新入社員四人の乗船研修記、いかがだったでしょうか。皆さんはもうお気づきだとは思いますが、そうなんです、今年は時化していなかったのです。べた凧だったのです。乗船前は船酔いを気にしていたようですが、時化による揺れも経験しなかったと四人とも少し残念がっていました。（営業部のM君は下船後、「あ、丘酔いだ」と言っていましたね。）

お疲れ様でした。研修を通してまた少し成長した四人の今後に期待しましょう！



皆さん、ありがとうございました！